

会議名称	平成26年度 第4回杉並区地域自立支援協議会
日時	平成27年3月19日(火) 13:30～16:15
場所	分庁舎4階 会議室
<p><出席委員> 高山由美子委員(会長)、神作彩子委員(副会長)、金子めぐみ委員、菊地英治委員、小笠原みのり委員、大和田耕平委員、竹嶋美歩委員、加藤恵愛委員、長野達也委員、岡安容子委員、鈴木正道委員、春山陽子委員、甲田潔委員、平田愛子委員、下田一紀委員、高橋和哉委員、小野寺肇委員</p> <p><欠席委員> 田中直樹委員、清水豪委員</p> <p><幹事> 保健福祉部障害者施策課・生活支援課長：武井浩司、杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：山崎佳子</p> <p><事務局> 障害者施策課：池田恵子、目黒紀美子、藤井志乃、星野健、直井誠(記録) 障害者生活支援課：長谷川比呂子</p>	
<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶 今期より4回開催となったがあつという間であった。今期の最後に実施したシンポジウムも成功し自立支援協議会の成果を時期に向けていけるよう、本日皆さまから多くの意見をいただきたい。</p> <p>3 報告 (1) 幹事会より<別紙参照> * 質疑・意見交換</p> <p>○：地域移行促進部会の中で相談支援部会との役割が被る部分があるということだが、地域移行促進部会の中で具体的に取り上げられた事例はどのようなものがあるのか？</p> <p>○：計画相談を実施する窓口が増えてきて、違ったキーパーソン(相談支援専門員)がでてくると地域定着を進めている相談者に話すことと内容がかぶってきってしまう事例がある。</p> <p>○：それぞれの部会で扱った課題が重なり合っていることが確認できた。地域生活を支援するということは暮らしを支えるということなので重なり合って当然である。重なり合っているところに大切なことがあるということが確認できる。次の期につなげていければと思う。特に就労は当初より大きな課題であったがなかなか取り組むことができなかった。相談支援部会の中でも取り上げる課題の一つになっているが、次期に引き継ぐべき課題であることをこの場で確認したい。</p>	

(2) シンポジウム実行委員会より<別紙参照>

- ：参加者から多くの声をいただき感謝している。企業の方や当事者の参加あつてのシンポジウムであつた。参加いただいた皆様からの感想をお聞きしたい。
- ：お話を聞いて、スターバックスコーヒーで働いている人も一生懸命頑張っているなど思い励まされた。
- ：昨年のシンポジウム（医療的ケア）に法人から参加したスタッフがいて法人内で報告をしたところ、反響が大きく「自分たちの仕事は結果が見えにくいところもあるが、シンポジストから訪問看護の大切さについて話が聞けてよかった」との声があつた。多くのスタッフが直接話しを聞いたかつたと言つていた。多く参加いただくには曜日や時間も課題であると思う。
- ：特別支援学校の就労に関する取り組みを聞くことができたが、学校内での反応はどうであつたか。
- ：シンポジウムに来た保護者からは特別に声は上がっていないが、学校の就労支援の取り組みでは、報告のようなネットワークを作っていくことが一般的である。今回のパネリストを紹介したのも5年、10年の取り組みを通して企業の中で本人も成長している姿を見てもらうため。それは昔からの応援が支えとなっている。今回、スターバックス社は相当の時間をかけて発表をしてくれたので、十分にお礼ができることようにすることも課題となると思う。
- ：時間の関係で参加ができない親御さんも多かつた。学校で資料を掲示しているが、手にとって見ている親御さんもいる。多くの方が参加できる工夫があるとよい。
- ：多くの方に参加していただきたいが、どの時間に設定するのが一番よいのか、なかなか難しいところがある。
- ：毎年、参加している。内容が濃く、特に今年は事前準備が相当できていることを感じた。育成会の中でも「参加したいけれどできず残念だつた」との声があつた。支援者主体とならないよう本人・家族がたくさん参加できるとよいと思う。
- ：シンポジウムの中で記憶に残っているのは、基調講演の中で、障害のある人が飛行機に乗るということを当然のように話していたこと。当然のことのように話していたが、自分には機会は少ないが、相当の準備がいることだし、本人・家族・周囲の人も当然の権利という意識はまだまだ弱いので、家族も一緒に聞いたほうがよい話だと思った。（親が子供の権利を狭めていることもたくさんあるので）当事者がぶつかつた課題として、権利意識が周知されていくとよいと思う。
- ：アンケートの声からも基調講演の反響が良かったことが読み取れる。支援者としても大きな学びの場となつた。
- ：2年間実行委員として関わらせてもらった。今年はコーディネーターの役となつた。基調講演は権利擁護という「旬な話題」を杉並区としてどう取り組んでいくのかを考えさせられ、法律を作るところでの当事者の話を聴けたのは貴重であつた。基調講演の内容は、法律や施策が変わつた時など幅広い視点で内容を決定できればよいと思う。シンポジウムは毎回当事者参加で作つてきている。今年は就労がテーマであつたが、本人の暮らしを知ることができてよかった、という声があつたことはうれしく思う。今回のケースはうまく就労できているケースであるが、課題はどこにあるのか、という視点を持つのは支援者側であり、本人にとっては当たり前前に課題を克服していつている事例である。内容を協議会本会でも生かしていけるようなシンポジウムにしていきたい。

4 議題

□第4期自立支援協議会のまとめ 及び 第5期自立支援協議会に向けて<別紙参照>

・第4期相談支援部会の活動報告と質疑<下田委員より報告>

○：相談支援部会に届いていない声があると感じる。Bグループ（地域医療を支える）の内容は知的障害者にとっても大切なことである。グループホーム入居中の自分の息子が手術の必要な病気をしたが、障害者ということで病院選びなどが困難であった。受け入れの在り方を話し合っしてほしい。Cグループでは、障害の重い人たちは住まい・生活の場を選べない（グループホーム不足）。グループホームの情報も不足しており、選びようがない現状。グループホームのこともテーマとしてとり上げてほしい。

○：受診医療機関の問題については、グループホームの世話人さんも困っており、相談支援部会でも、課題について論議を深めていけるか、地域移行促進部会との共通の課題となっている。

住宅の問題は障害理解のある大家さん、不動産屋さんなどどう増やしていくのか、この不動産屋さん等と地道なお付き合いをしていくことが必要であると考えている。支援者側も相手に当事者理解を得てもらえるよう努力していくことが必要である。

○：雇用支援ネットには30施設が集まっており、就労の課題や就労支援について学びの機会をもちたり、企業で働き続けるための支援・連携の在り方など、もう少し掘り下げて話し合いたいという声がある。自立支援協議会と雇用支援ネットワーク会議と共有し合えることがあればよい。いろいろな機会を通じて就労を考えていきたい。

○：これまでの部会の議論を踏まえ、具体的な方向性を出してもらってきている。次期に向けての体制や方向性についてもこの場で確認させていただきたい。丁寧な議論を積み重ねてきたうえで相談支援部会が進んできていることに感謝をしたい。

・第4期地域移行促進部会の活動報告と質疑<鈴木委員より報告>

○：地域定着支援の対象者についての議論をしたものが支給の対象として反映するのか？どういった方が支給の対象となるのか？

○：今年度、地域定着支援の対象者像について議論をしてもらい、対象者像を固めてもらったところである。何件かの方に支給決定している。支給認定会議の中で議論になるのは地域定着の件である。見守りの体制をどうしていくのかの判断が難しい。事例を積み上げる中で地域定着像の共通認識を作っていくことが大切であると考えている。

○：報告を聞いていて地域定着像が絞られてきて、サービスへのつながりなども見えてきた。実際のニーズはどれくらいあって、どれくらいの機関が関わっているのか？またケースの把握はできているのか？

○：実際は全部のケースを把握していないが、地域移行促進部会には保健センターやすまいる、特定相談支援事業所などで事例を出しながら対象者像を確認してきている。一般相談支援事業所が4か所という現状では多数の事例をカバーして行くのは難しい。対象者像に当てはまっても事業所が一般の指定を受けていないと、別の事業所に変えるのかということそれは望ましくないケースもある。

○：その辺りの対象者に視点を当てると地域移行促進部会だけで考えるのがよいのか？

○：地域定着支援は地域生活支援の一部でしかない。単に地域定着サービスを使うだけでは解決でき

ない問題が抽出できた。狭間の方がいる（どのサービスにもつながらない人）ことに気づけた。

- ：その人に焦点を当て、自立支援協議会で取り上げられるとよいと思う。
- ：継続した課題とらえ、自立支援協議会で取り上げること、相談支援部会で重なるところには重要な意味がある。次期もこの部会を引き継ぐことを確認させていただきたい。

・第4期の振り返り<別紙・資料5参照>

- ：多くの議題に取り組んできて、あつという間の2年間であったが、皆様からの意見を伺いたい。
- ：地域移行促進部会の中で、緊急時の医療との連携が出されたが、基本は本人を理解している「かかりつけ医」を持つことが大切である。在宅医療機関は365日24時間対応が大切であるが「緊急時」が起これないための指示を家族に前もって与えておくことが必要となる。かかりつけ医とも情報交換をしておけば「緊急時」をかなり回避できる。受け入れ医療機関がないということもあるが、「東京ルール」で最後は受け入れる医療機関はある。情報提供をしていきたいと思う。
- ：学校から卒業期は福祉事務所訪問することにしてきたが、今後はどこに相談に行けばよいのかが課題。通勤寮に急ぎつなぐケースなど緊急な対応が必要なケースの場合待ったなしだが、計画作成をする事業所がない場合などどうするのかなど課題も出てくるのでは。
- ：いま私は家族と一緒に住んでいるけど親がいなくなって独りになったらどうしたらいいのかわからないので、そういうことを相談したい。
- ：安心して暮らし続けられる地域づくりが自立支援協議会の大切なテーマであると感じる。次期にもつなげていきたい。
- ：独り暮らしをしているので介助してくれる支援者が必要である。この2、3年はヘルパーが不足している。介護の質にも疑問がある。これらは自分の生活に大きな影響がある。自立支援協議会の欠席が多かったのは、なるべく風邪など病気をしたくないので、そのための防寒の準備などヘルパーに上手くやってもらえず、自分の希望との差が埋められないためである。訪問看護も身体を見て付添いのヘルパーに説明するが、自分自身には説明してくれない。一般的にも家族には説明するが本人には説明しない、ということが普通になっているように感じる。訪問看護のスタッフは入院への立ち合いができないが、本人の身体状況を把握している人が立ち会えないというのはおかしい。改善に向けて声を上げていきたい。
- ：今の委員の声を各委員の職場に持ち帰ってほしい。協議会の目的のひとつは人材育成をすることである。直接こういった課題に取り組むのは難しいかもしれないが、部会の中の議論でも当事者の声を聞きながら人材育成を進めることは重要である。次期も取り組んでいく必要がある。
- ：昨年秋から体調不良で何回か休んだが、自分の病気が改善しても、独りで生きているのではなく仲間やスタッフに支えられて今があることを感じている。病気を持って働くことは大変だが、久しぶりに就労したことを通じて障害者の立場や地域生活の難しさ、大切さを感じる。ピア相談員を長くやってきて、もっと活動の場があるはずだが未だ「ボランティアの域」でしか意識されていない。当事者が当事者を支える杉並になってもらいたい。待っているだけでなく、働きかけることもピア相談員の役割だと思う。今期、当事者の言葉を伝える場であったことをありがたく思う。
- ：委員はシンポジウムで初めて声を上げたピアのパイオニアである。改めて声を上げてくれたことになる。

- ：相談支援部会 B グループに本会委員として参加させていただき、学校の課題など改めて聞きとらせていただいたところ、今まで気づかなかったことについて気づきがあった。B グループで報告することでいろいろな機関とネットワークが作れた。自分自身の学びの場となった。医療的ケアを要する生徒が毎年増えてきている。これらの児童や生徒が地域に生活していることをまわりに知らせていくことにも協議会が役立っている。シンポジウムにも参加できて有意義であった。
- ：就労の問題を自立支援協議会の中で発表できたことはよかった。多くの機関と連携することで、就労準備や雇用の継続ができています。グループホーム入所者でスーパーに勤務している人などについては、世話人と連携するなど地域の見守りや本人の成長を支えていきたい。
- ：第 1 期から参加しているが、この間の取り組みや上がってくる課題を見ていると新たな課題が生まれてくるを感じる。改めてこの場で確認し、職場に帰って話ができることに大きな意味がある。すまいるも 2 年目となり、さまざまな相談を受けているなかでの課題と重なっている。就労の問題など共通の話題として話し合いができて有意義であった。
これからは課題の確認だけではなく当事者主体の生活どう生かされているのか、区民にどうメッセージを届けていくのか、大切に考えていきたい。
- ：いろいろと考えることの多い協議会であった。一期目は協議会の役割が不明確であったが、はっきり見えていたのはネットワークの構築であった。ニーズに応えられないこともあるが、各機関の得意分野など協議会でわかるので、相談しながらどこにつなげるのがよいのかなどの思いが浮かぶので、協議会は心の支えとなる。次年度も皆で共有して課題解決につなげるためにも活発な活動をしていければ、と思う。
- ：2 年間相談支援部会に参加して良い勉強ができた。部会に参加しづらいメンバーもいて、任意参加となったが、障害者福祉推進のために生かせるよう今回参加できてよかったと思っている。
- ：支援者の顔が見えてありがたい場である。計画相談を担う者として地域の人たちの顔を見る機会が増えてきているが、各機関から相談支援専門員の役割がいまだ不明確である。自分たちのスキルアップも必要であるが、相談支援専門員のことを理解してもらえるようにしたい。またケアマネジャーとの連携や役割分担を、利用者の立場に立ち、支援のつながりを自然に作れるようになるのが理想だと感じている。
27 年度からサービス申請窓口移管など変更もあるが、支援のつながりを保つためにもこの協議会に改めて期待をしたい。
- ：計画相談も含め、相談支援体制は良い方向へ向かっていると思う。支援者間のネットワークも重要である。支援者一人ではできないことも、いろいろな情報が入ることで対応できる。この協議会も大切な場である。他分野の方を含めた議論ができるのも有意義である。自分の持っている課題を発信していくことも大切だと考えている。自分の職場のスタッフにも伝えていきたい。
- ：第 4 期から参加している。自立支援協議会の目的について考えさせられた。多岐にわたる役割の中で、本人のサービスが形作られていく一助となるのが自立支援協議会だと思う。一人ひとりの課題は、各立場から考えていくことになり、自分自身の役割も考えさせられた。地域の困りごとを吸い上げていくという協議会の目的を多くの人に知ってもらえるよう発信していきたい。また、障害者地域相談支援センターすまいるの存在意義も考えていきたい。
- ：今期の途中から参加している。それぞれの人が持っている課題を議論する過程ですぐに制度化は

考えられないが、支援の糸口を見つけていくことが重要であることを皆が感じていると思う。相談支援部会は、相談支援専門員同士や学校関係者など支援者間の見えないつながりを感じる場であったと思う。メンバーそれぞれがエンパワーメントされている大切な場となっていた。利用者・家族に反映できるとよい。本会委員の力も借りて充実した議論を継続していきたい。

○：2回目から参加しているが、初めは自立支援協議会のことがよくわからなかったが、委員の議論や深みを理解し、勉強することができた。自分の所属する団体でも報告をした。現在抱えている課題は、協議会の議論の狭間にある「高齢化した親子の問題」があり、今後協議会でとりあげてもらえるとありがたい。

○：団体からオブザーバーとして参加しているが、自立支援協議会では一人の親として話を伺った。課題として感じるのは「本人の意思決定支援」であるが、自立支援協議会の中でも、障害当事者の声を聞いて共感できることが多かった。声なき声にどう寄り添っていくか、支援の輪が強まるほど本人の意見が追いやられることなど溝があることを感じている。自立支援協議会の議論が本人支援にどうつながっていくのか、この溝をどう埋めていくのか、この場の議論が障害者一人一人に反映されていくことを願っている。

○：次期からは2名の方はオブザーバーではなく委員として参加してもらおうよう次期に引き継ぎたい。家族だからこそその視点を取り入れてほしい。

いろいろな会議体があるが、区への要望を上げる場とならないことを大切にしている。それぞれがネットワークを作る立場で最大限の努力をしてほしい。

5 区からの報告事項と質疑

(特になし)

6 閉会

【配付資料】

資料1 平成26年度第3回杉並区地域自立支援協議会で出された意見と課題整理

資料2 平成26年度杉並区地域自立支援協議会第4回シンポジウム 実施報告

資料2別紙 杉並区地域自立支援協議会第4回シンポジウムアンケート集計

資料3 相談支援部会の第4期の取り組みについて

資料4 地域移行促進部会の第4期活動報告

資料5 第4期地域自立支援協議会（平成25～26年度）での取り組み状況と課題別冊資料